

次期学習指導要領 1枚まとめ｜高校

数学 高校

小中高を6つの分野でつなぎ、証明と批判的思考を育てる

10秒でいうと　数学Ⅰに「社会を読み解く数学」等を加え最大8新単位程度に。数A・B・Cは1科目に統合する案

高校の数学は、科目の組み立てが変わる案です。必履修の数学Ⅰに「数学ガイダンス」と「社会を読み解く数学」を新しく入れる方向です。そのため数学Ⅰは最大8新単位程度とし、数学Ⅱは6新単位に減らす案です。数学A・B・Cは一つの新しい選択科目にまとめる案です。新科目の名前は「数理活用」などが例としてあげられ、まだ決まっていません。

1 数学Ⅰに「社会を読み解く数学」

数学Ⅰだけで卒業する生徒にも大切な内容として、「社会を読み解く数学」を新設する案です。実社会の場面をもとに、場合の数と確率、統計的な推測、行列、数列の基礎を学びます。数学ガイダンスも数学Ⅰに置き、単位数は最大8新単位程度とする案です。 P80 P81 P167 P172

授業では スマートフォンの料金プランやくじの期待値など、身近な場面を数理モデルで比べる授業。そんな学びが方向に沿う例として考えられます。

2 数学A・B・Cを一つの新科目に

数学A・B・Cの区分をなくし、内容を選べる一つの新しい選択科目にまとめる案です（2〜12新単位）。内容は場合の数と確率、統計的な推測、行列、数列、幾何ベクトル、複素数と複素数平面に整理します。名前は「数理活用」などが例とされています。 P80 P167 P172

授業では 文系志望の生徒にも統計と行列を選ばせるなど、進路に合わせて内容を組み合わせた履修モデルを校内で試しに作る。そんな準備が考えられます。

3 数学Ⅱは減らして総量はそのまま

数学Ⅰが増える分、数学全体の学習量が増えないよう調整する方向です。選択科目の内容を他の科目へ移したり、しぼったりします。数学Ⅱは6新単位（今の3単位分）に減らす案です。数学Ⅰ→Ⅱ→Ⅲの順序は今どおり維持するとされています。 P80 P81 P171 P172

授業では 数学Ⅱの年間計画で、他科目へ移る可能性のある単元に印をつけ、時間配分を見直す準備をしておく。そんな対応が一例です。

4 外部試験で数学Ⅰの免除も

信頼できる外部試験で、数学Ⅰより上の級（数学Ⅱ・B相当など）に合格した生徒が対象です。学校などの判断で数学Ⅰの履修を免除できる方向です。代わりに発展的な学校設定科目などを学びます。入試対策の早修に濫用するのは極めて不適切とされています。 P175 P176

授業では 才能のある生徒のために、数学Ⅰの時間に発展的な課題研究を行う学校設定科目の案を考えておく。そんな検討が考えられます。

ほかにも変わること（高校）

- 高校の数学A・B・Cを1つの新科目に統合する案 P166 P171 P172 P80 P82
- 数学Ⅰに「社会を読み解く数学」を新設する案、単位数は数学Ⅰ増・数学Ⅱ減 P166 P172 P81 P82
- 中学校・高校に「数学ガイダンス」を新設する方向 P167 P171
- 証明・論理的な説明の学習を小中高で強化（「論証」分野） P164 P165 P167 P171
- 目標・見方・考え方を小中高で統一し、学習内容を6つの「分野」で整理 P166 P167 P168 P169 P170
- 学年の区切りをこえた柔軟な指導と学び直し（調整授業時数の活用例も） P174 P175
- 定着を支える指導の工夫（認知心理学の知見・帰納と演繹のバランス・ICT） P164 P174 P177
- 内容の精選と、教科書で「必ず扱う内容」と「必要に応じて扱う内容」の区別 P173

原田英語.com 次期学習指導要領ナビ｜https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/｜2026年11月4日 版

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。出典：審議まとめ（2026年10月5日）。告示前の方向性です。